

北公民館

高齢者の交通安全

10月1日(火)、北公民館で第4回寿大学が開講されました。

最近、事故のニュースなどをよく聞くこともあり、今回は伊予警察署の河野正交通課長さんに講師をお願いしました。

今年に入って、すでに4件の高齢者死亡事故が町内で発生していることもあって、今回の会になりました。

当日は、80名あまりの方々の参加をいただきました。

伊予警察署からは、交通課長さんをはじめ、4名の方々が指導に来てくださいました。

まずはじめに、交通事故の概況などのお話がありました。

続いて交通安全に関するビデオを見ました。ビデオとはいえ迫力のある映像と音で、実際に事故が起きる寸前を目撃した感覚になって思わず、「危ないっ」と叫んでしまいそうになり、改めて事故の怖さを感じました。

また、北公民館の駐車場では、交通安全体験車での模擬体験などもあり、終わった後は、運転データをもとに、担当の方の分かりやすい指導があり、よい勉強になりました。

ビデオの後には、反射神経を試すゲームなどもあり、楽しさから笑い声が上がるほどでした。

この会を通して交通安全の大切さをよく学ぶことができました。

最後に交通安全協会から反射材をいただき閉会となりました。



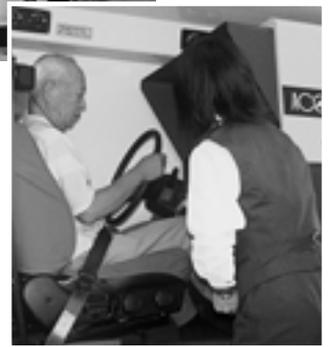
◀反射神経を試す信号機ゲーム



◀模擬体験車での様子



◀河野正交通課長さん



交通安全のポイント

- ・交通安全ルールを守ることに。
- ・体調の悪いときは外出しないこと。
- ・全てのドライバーが交通ルールを守っているとは限らないことを自覚すること。

ふるさとをたずねて

禅正軒の大念仏

文化財保護審議会委員

武市通彦

天正13年(1585年)豊臣秀吉が長い戦乱から四国統一を行ったところ、伊予の国では多数の城が廃城となった。

松山道後の湯月城(城主は河野通直)や河野の重臣で荏原城主平岡通倚も最後の城主になってしまった。

通倚はその後、毛利輝元に味方して安芸(広島)方面に行ったが、その息子平岡(平若)左近は慶長5年(1600年)毛利派の一味と共に、松前城(城主加藤嘉明)を攻めるが、当時、嘉明は関が原の戦に出向き留守であった。

松前城留守居役家老の佃十成らわずかの兵士たちの計略に陥り敗走し、出作の音地やぶにさしかかった時、追っ手に囲まれ懸命に争ったが討たれてしまった。

その時追っ手の者たちは「主なき畜生め!」と言って、左近の乗っていた馬の首まで切り落とした。

平岡左近の亡骸は家来の者たちが、現在の二名神社西方に埋葬した後、家来7名も墓前で自刃した。

それから不思議なことに毎晩、人の寝静まったころになると「シャン、シャン、シャン」という鈴の音が蹄と共に聞こえるので、土地の人々は左近と家来7名の霊と共に馬の霊も供養した。この供養で不思議なことはパッタリとやんだ。

現在も毎年8月12日夕方に禅正軒(晴光院管理)では大念仏の供養が行われる。

長老の先導者が大団扇をかざして大念仏を、続いて参加者全員が団扇をかざして大念仏を唱和する。

- 一、左近様に申し上げます。
- 大南無阿弥ろっばい
- 大南無阿弥ろー
- 南無阿弥ろー
- (それぞれ3回繰り返す)
- 二、ちから様に申し上げます。
- (一と同じ念仏を3回)
- 三、老僧に申し上げます。
- (一と同じ念仏を3回)
- 四、お薬師様に申し上げます。
- (一と同じ念仏を3回)
- 五、南無阿弥陀仏
- 南無阿弥陀仏
- (5回繰り返す)